

社会福祉法人葵会 2019年度評価書・・・評価者：法人役員

1.運営		総合評価	
項目	評価項目	役員評価	概要
	地域貢献事業	評価 B	
法人	(1)地域活性化のための支援活動		
	・高齢者家庭訪問	B	・地区社協の活動を広げるための取り組みは難しく例年とおりの支援にとどまっている。 また S 型デイサービスについては自主運営できるようになってきた。
	・地域各団体の事務局活動 地区社協・郷土をよくする会・S型デイサービス	B	・高齢者家庭への訪問は単独では難しく民生委員や地区役員に同行する形で件数の実績である。 ・保健センター・民生委員の協力のもと家族支援への取り組みが進んでいる。
	・関係団体との協力活動 各小中学校・保健センター・警察等	A	・小学校運動場で園児が運動会の練習をし小学生が応援したり、小学校の運動会に年長児が参加する等協力体制が確立しつつある。 次年度はさらに交流を深めることとして教職員同士の研修等を行う予定である。
	(2)介護予防活動		
・健康体操実施	A	・法人主催の健康体操と S 型デイサービスとを混同する方がいたが、年度末頃には違いを理解し自分たちで選択して参加するようになった。 ・S 型への参加者より健康体操参加者の年齢は高いが、比較すると高齢者の方が体力がついている。これは数年間継続して参加している方が多く成果の表れであると思う。	
・S 型デイサービスへの支援活動	A	・小学生・利用者・園児・自主参加者と様々な世代が集まって行う S 型デイサービスに会場提供や実施支援を継続して行うことができた。 ・支援活動を少しずつ控え自主運営に切り替えることができています。	
こども園	保育の充実 評価 B		
	・環境設定	B	・コーナーの充実を図ったがまだ不十分である。次年度はデイサービスの利用者もコーナーを活用する予定ですり合わせを行っていく。
	・幼児保育	B	・こどもへの対応は丁寧にとの職員も関わる事ができた。 ・年長児の成長は著しく、年間の活動を通して自信をもたせることができた。しかし名前の呼び捨てを辞めさせる等、人を尊重する教育がしっかりとできていなかった。
	・乳児保育	A	・途中入所児が多かったが、一人一人に丁寧に関わってきたので保育室は落ち着いた雰囲気でも子どもたちも安定している。 ・職員が常に話し合い環境を整えることができていた。
	・食育	A	・栽培から収穫・調理までを子どもたち自らが全て行うことで食べ物への愛着や食べることへの感謝の気持ちが育まれている。 子どもたちの表情や何気ない会話の中から推測できる。 ・食事の姿勢・箸の持ち方等の指導は徹底できずせっかくできて継続しない。職員個々の意識の共有ができていなかった。
	地域へ向けての支援活動	評価 B	

支 援 セ ン タ ー	・出産後家庭訪問	C	・出産家庭の情報を得ることが難しく機会が少なかった。
	・学童保育の充実	A	・様々な体験ができるよう活動内容を充実することができた。
	・活動内容の充実 ・サークル支援	B	・利用者の中からサークルが立ち上がり、活動を支援することができた。 ・ベビレスも参加者が調理する体験としたことでねらいとりの成果が表れている。

項目	評価項目	役員評価	概要
デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー	活動の定着	評価 B	
	・デイリーの構築	B	・利用者が自主的に活動できるようなデイリーを組み立てるために検討を繰り返し年度後半でようやく確立してきた。
	・子どもたちとの交流	A	・毎月の誕生会を一緒に行う事で利用者も園児も期待を持つようになった。 ・年度後半には利用者が毎日園庭にでたり、散歩に出かけたりとす る中で園児がお気に入りの利用者を心待ちするようになってきた。
	・職員教育	B	・途中退職等の職員がいなくなり、また毎月の動態を事前に組むこ とから勤務体制が落ち着いてきた。(流動的な勤務を希望する人がいない) 職員会議やケース検討等を全職員で行うようになり勤務への姿勢 や分掌の実施などがしっかりとできるようになった。
法 人 職 員	職員の充実	評価 B	
	・複合施設としての研修の充実	B	・高齢者と乳幼児のそれぞれの特質を全職員で学ぶことで、交流時の リスクを回避できるようになってきた。まだ全ての共有はできない が次年度も引き続き行うことで危険を防止していきたい。
	・業務省力化への取り組み	B	・土曜勤務職員を増やすことで記録等の時間を確保することができた。 それにより普段の残業が少なくなってきた。 ・フリーとして午後の時間を確保できるようになっていたが活用でき ずに一年が過ぎてしまった。職員の意識を高めていきたい。
	・選択できる勤務時間	A	・家庭の状況等に合わせ、短時間勤務・6時間勤務・短時間から8時間 勤務へ変更するなど雇用形態を選択できる環境が整っている。
2.経営		総合評価 B	
法 人 全 体	・デイサービス事業の安定	B	・利用者は増えてきていたが、施設入所となったり亡くなられる等で 減少してきた。しかし年間での収支はマイナスではなく安定してきた。
	・園児の確保	B	・0歳児の途中入所が多く経営的には収支がとれたが、幼児の人数が 減少傾向にあるので次年度は幼児の定員変更を申請した。
	・職員処遇改善	A	・デイサービス職員の処遇改善費を支給することができ、給与の改善 を図った。 ・利用者が主体的に活動できるように職員を増員し、日々の業務内容 を計画的にすることで見通しを持った勤務ができるように体制を整

			<p>えてきた。それがようやく定着してきたので成果は次年度に表れてくると思う。</p>
3.評価及び改善		総合評価 B	
法人全体	・要望調査と改善	B	・保護者や利用者からの要望に対しては迅速に誠意をもって対応できた。
	・職員自己評価と園の自己評価	B	・保育教諭、調理員、介護職員等それぞれの専門についての自己評価を行うことで振り返りと次年度への目標設定を行った。
	・苦情に対する対応と改善	A	<p>・苦情はなかった。</p> <p>・行事日程等への要望があったので次年度計画に取り入れる</p>